



## 2022年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年7月13日

上場会社名 株式会社 日本色材工業研究所  
 コード番号 4920 URL <http://www.shikizai.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 土谷 康彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理・財務部長 (氏名) 霜田 正樹

TEL 03-3456-0561

四半期報告書提出予定日 2021年7月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年2月期第1四半期の連結業績(2021年3月1日～2021年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第1四半期	2,088	14.5	218		168		156	
2021年2月期第1四半期	2,442	22.2	96		116		84	

(注) 包括利益 2022年2月期第1四半期 138百万円 ( %) 2021年2月期第1四半期 88百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第1四半期	74.80	
2021年2月期第1四半期	40.14	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第1四半期	15,606	2,952	18.9	1,408.57
2021年2月期	15,550	3,090	19.9	1,474.67

(参考) 自己資本 2022年2月期第1四半期 2,952百万円 2021年2月期 3,090百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期		0.00		0.00	0.00
2022年2月期					
2022年2月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日～2022年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,054	20.2	375		304		305		145.91
通期	9,276	1.5	48		18		101		48.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年2月期1Q	2,099,376 株	2021年2月期	2,099,376 株
期末自己株式数	2022年2月期1Q	3,520 株	2021年2月期	3,520 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年2月期1Q	2,095,856 株	2021年2月期1Q	2,095,856 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき記載しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想とは異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2021年3月1日～2021年5月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の再拡大に伴い3度目の緊急事態宣言が2021年4月に発出されるなど、ワクチン接種は開始されましたが、引き続き新型コロナウイルス感染症が国内外の経済活動に大きな影響を与えており、景気の低迷が継続しています。欧米各国ではワクチン接種の進展に伴い都市封鎖（ロックダウン）が解除されるなど、ワクチン接種の進展度合いなどに応じて地域や国による跛行性が見られますが、依然として先行き不透明な状況が続いております。

化粧品業界におきましても、メイクアップ製品を中心に、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けております。国内では、商業施設の営業時間短縮・臨時休業や、消費者の外出自粛ならびにマスク着用の常態化により個人消費が低迷、さらに、わが国への入国規制強化による訪日外国人旅行者の激減に伴うインバウンド需要の蒸発により、化粧品需要はメイクアップ製品を中心に大きく減少したまま推移しています。海外においても、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症の影響等により化粧品需要は大きく減少、先行き不透明な状況が続いておりますが、ワクチン接種の進んだ地域や国では各種の感染症対策が緩められる事によって経済活動の再開や消費の回復が見られるように、化粧品需要の回復においても地域や国による跛行性が見られる状況です。

当社グループにおきましては、2017年度からスタートした「中期事業戦略ビジョン(2017-2021)」のもと、「生産能力の増強」ならびに「グローバル化の加速化」の実現に取り組んでまいりましたが、想定外の新型コロナウイルス感染症拡大と影響の長期化により、厳しい環境のもとで事業活動を強いられております。「生産能力の増強」施策として取り組んだ「つくば工場第3期拡張工事」や海外子会社における設備投資によって実現した生産能力を活用しきれない状況が続いており、2021年3月には吹田工場閉鎖（2021年8月末）の決定を余儀なくされております。

今後、ワクチン接種の進展による経済活動の回復を期待するものの、新型コロナウイルス感染症の収束のタイミングやスピードが不透明な中、まずは営業赤字からの早期の脱却、そして新型コロナウイルス感染症拡大以前の業績水準への早期回復に向けて一步一步着実に改善を重ね事業基盤の再構築を図ってまいります。特に当面は、新型コロナウイルス感染症下における化粧動向を反映した処方・生産技術の開発ならびに品質や安全性の向上に加え、ニューノーマルの時代に即した事業戦略の再構築などを通じて、新しい環境での強みを伸ばして業績の速やかな回復を図るべく更なる努力を重ねてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における経営成績は次のとおりとなりました。

売上高は、国内で①新型コロナウイルス感染症対策としての外出自粛やマスク着用の常態化によるメイクアップ化粧品の消費需要の減少、②訪日外国人旅行者によるインバウンド需要の激減、③世界的な新型コロナウイルス感染症拡大による海外向け製品受注の減少、ならびに④新製品企画の先送りの影響が引き続き大きく、加えてフランス連結子会社も当第1四半期連結累計期間は新型コロナウイルス感染症の影響で減収となったことから、前年同期比14.5%減の2,088百万円となりました。

利益面では、「つくば工場第3期拡張工事」竣工等に伴い諸費用が増加している中で売上高が減少した事により、営業損失は218百万円（前年同期は営業損失96百万円）、補助金収入58百万円等の計上により経常損失は168百万円（前年同期は経常損失116百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は156百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失84百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間における所在地別セグメントの業績の概況は、次のとおりです。

(日本)

上記のとおり新型コロナウイルス感染症の拡大によって国内外の化粧品需要が急速に減少した結果、国内・海外化粧品メーカー各社からの受注が減少したことから、売上高は前年同期比6.3%減の1,629百万円となりました。利益面では、「つくば工場第3期拡張工事」竣工等に伴い諸費用が増加している中で売上高が減少した事で、営業損失の計上となりましたが、経費圧縮努力等により158百万円（前年同期は営業損失172百万円）となりました。

(仏国)

子会社THEPENIER PHARMA & COSMETICS S.A.S.（以下「テプニエ社」という）の所在する欧州は、当第1四半期連結累計期間（1～3月）において、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて景気が低迷する中で、テプニエ社の売上高も476百万円と、新型コロナウイルス感染症の影響のほぼ無かった前年同期（2020年1～3月）対比で33.4%減と大幅な減収となり、利益面でも大幅減収に加えて設備投資に伴う諸費用の増加等もあって、営業損失は59百万円（前年同期は営業利益73百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、55百万円増加し、15,606百万円となりました。総資産の増加は、流動資産が170百万円増加し、固定資産が115百万円減少したことによるものであります。流動資産の主な増加要因は、現金及び預金が117百万円、受取手形及び売掛金が65百万円、電子記録債権が46百万円、その他が40百万円増加し、たな卸資産が99百万円減少したことによるものであります。固定資産の主な減少要因は、建物及び構築物が57百万円、機械装置及び運搬具が58百万円減少したことによるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末に比べ、194百万円増加し、12,654百万円となりました。負債合計の増加は、流動負債が72百万円、固定負債が121百万円増加したことによるものであります。流動負債の主な増加要因は、支払手形及び買掛金が26百万円、短期借入金が84百万円、賞与引当金が39百万円増加し、その他が82百万円減少したことによるものであります。固定負債の主な増加要因は、長期借入金が134百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ、138百万円減少し、2,952百万円となりました。主な減少要因は、株主資本が親会社株主に帰属する四半期純損失により156百万円減少し、その他の包括利益累計額合計が18百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、2021年4月13日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,078,582	1,196,542
受取手形及び売掛金	1,504,068	1,569,722
電子記録債権	125,004	171,468
たな卸資産	1,864,005	1,764,186
その他	147,716	188,079
流動資産合計	4,719,378	4,889,999
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,258,016	5,200,323
機械装置及び運搬具(純額)	1,627,640	1,568,825
土地	2,155,986	2,156,256
その他(純額)	440,226	428,703
有形固定資産合計	9,481,869	9,354,108
無形固定資産	372,306	374,238
投資その他の資産		
投資有価証券	491,338	481,679
その他	493,823	512,381
貸倒引当金	△7,966	△6,139
投資その他の資産合計	977,195	987,920
固定資産合計	10,831,371	10,716,267
資産合計	15,550,749	15,606,266
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	371,459	397,695
電子記録債務	447,214	452,501
短期借入金	1,855,408	1,939,623
賞与引当金	41,166	80,544
その他	832,732	750,115
流動負債合計	3,547,981	3,620,479
固定負債		
長期借入金	8,099,696	8,234,614
役員退職慰労引当金	146,430	146,430
退職給付に係る負債	70,121	80,513
その他	595,816	572,079
固定負債合計	8,912,064	9,033,637
負債合計	12,460,046	12,654,117
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	714,104	714,104
資本剰余金	943,209	943,209
利益剰余金	1,220,652	1,063,884
自己株式	△3,857	△3,857
株主資本合計	2,874,109	2,717,341
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	254,893	247,910
為替換算調整勘定	△38,299	△13,102
その他の包括利益累計額合計	216,593	234,808
純資産合計	3,090,703	2,952,149
負債純資産合計	15,550,749	15,606,266

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年5月31日)
売上高	2,442,875	2,088,294
売上原価	2,207,607	2,036,058
売上総利益	235,267	52,235
販売費及び一般管理費	332,189	270,382
営業損失(△)	△96,921	△218,147
営業外収益		
受取利息	275	840
受取配当金	2,035	1,802
補助金収入	250	58,926
雑収入	5,399	3,299
その他	—	14,059
営業外収益合計	7,959	78,928
営業外費用		
支払利息	22,575	28,900
その他	4,896	42
営業外費用合計	27,471	28,942
経常損失(△)	△116,433	△168,161
特別損失		
固定資産除却損	0	1,009
特別損失合計	0	1,009
税金等調整前四半期純損失(△)	△116,433	△169,171
法人税、住民税及び事業税	22,662	2,438
法人税等還付税額	—	△14,841
法人税等調整額	△54,962	—
法人税等合計	△32,300	△12,403
四半期純損失(△)	△84,133	△156,768
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△84,133	△156,768

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年5月31日)
四半期純損失(△)	△84,133	△156,768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,670	△6,983
為替換算調整勘定	△25,904	25,197
その他の包括利益合計	△4,234	18,214
四半期包括利益	△88,367	△138,553
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△88,367	△138,553
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,727,418	715,456	2,442,875	—	2,442,875
セグメント間の内部売上高又は 振替高	11,774	—	11,774	△11,774	—
計	1,739,193	715,456	2,454,649	△11,774	2,442,875
セグメント利益又は損失(△)	△172,078	73,060	△99,017	2,096	△96,921

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額2,096千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,611,525	476,768	2,088,294	—	2,088,294
セグメント間の内部売上高又は 振替高	18,312	—	18,312	△18,312	—
計	1,629,838	476,768	2,106,606	△18,312	2,088,294
セグメント損失(△)	△158,196	△59,415	△217,611	△535	△218,147

(注) 1. セグメント損失の調整額△535千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。